

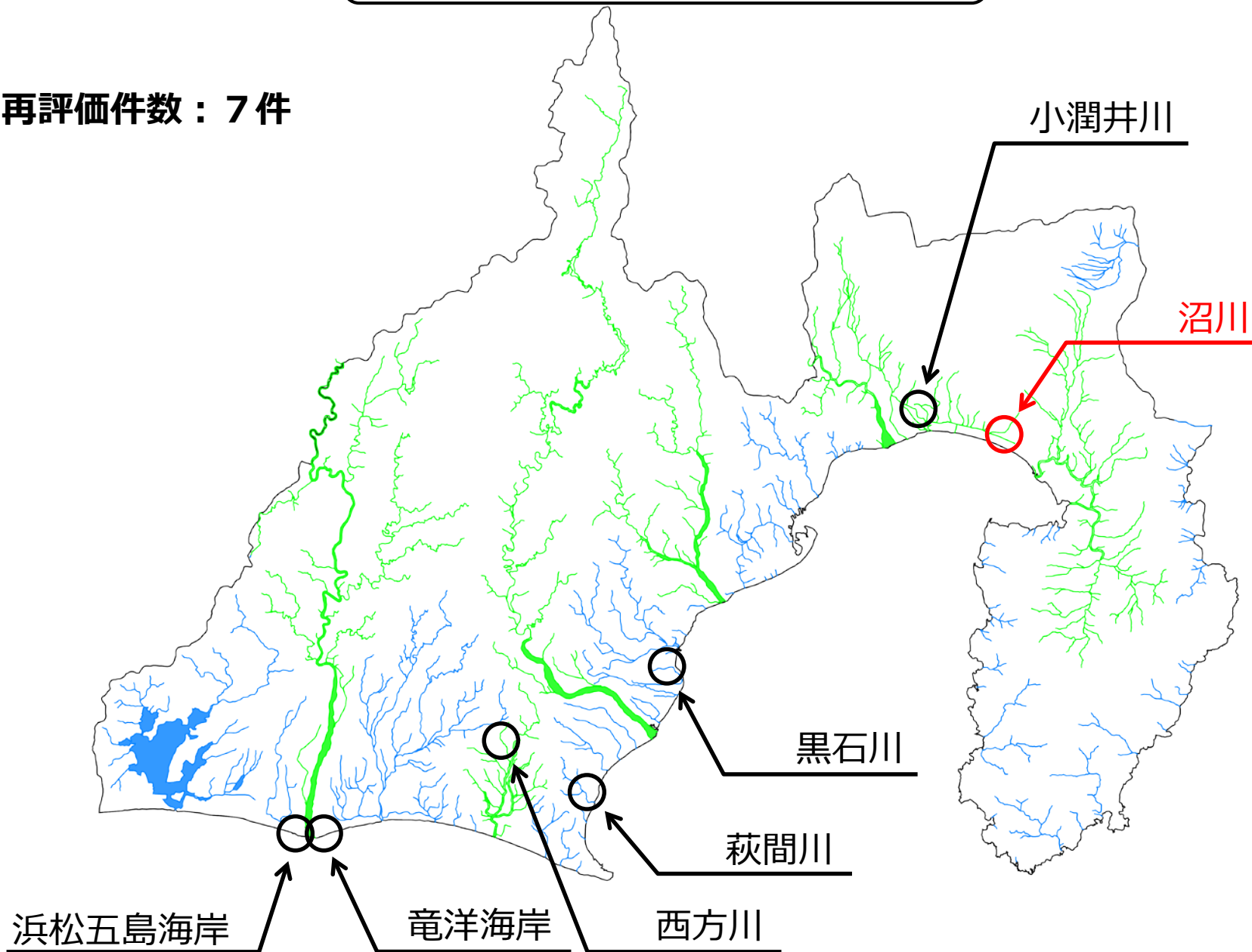
公共事業再評価

番号	事業名	箇所名	摘要
8	広域河川改修事業	一級河川沼川	重点説明事業
9	広域河川改修事業	一級河川小潤井川	
10	広域河川改修事業	二級河川萩間川	
11	広域連携事業	二級河川黒石川	
12	総合流域防災事業	西方川	
13	侵食対策事業	浜松五島海岸	
14	侵食対策事業	竜洋海岸	

河川砂防局 河川海岸整備課

再評価実施箇所 位置図

再評価件数：7件

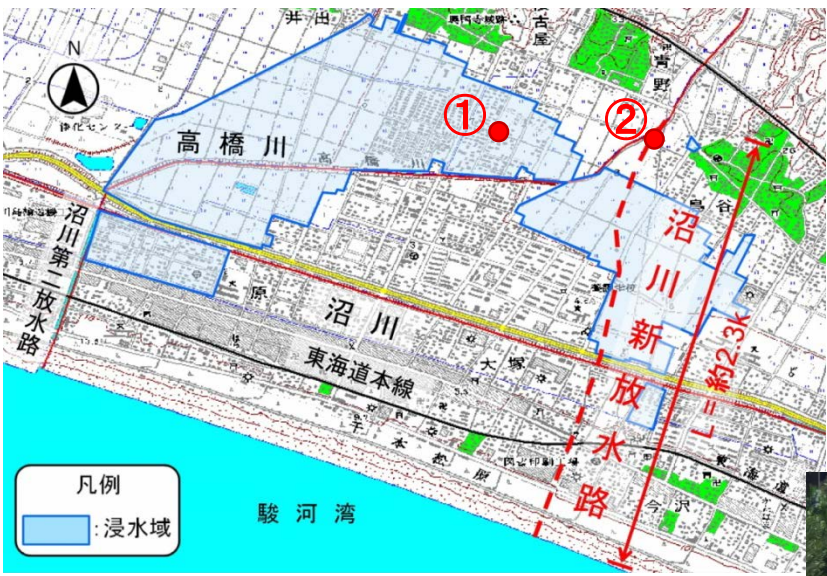


沼川流域の概要



事業概要

<事業概要>



計画期間	平成24年～平成43年
整備目標	10年に1回程度発生すると想定される規模の洪水による家屋浸水被害を概ね解消
全体事業費	250億円
投資状況	78.55億円 31.4%

H26台風18号浸水図

過去10ヶ年における浸水被害状況		
発生年月日	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)
H19.7.14	18	82
H20.7.3-4	17	64
H22.3.15-16	1	3
H26.10.5-6	1	22



平成26年10月6日11時頃
沼津市青野地区の浸水状況



平常時



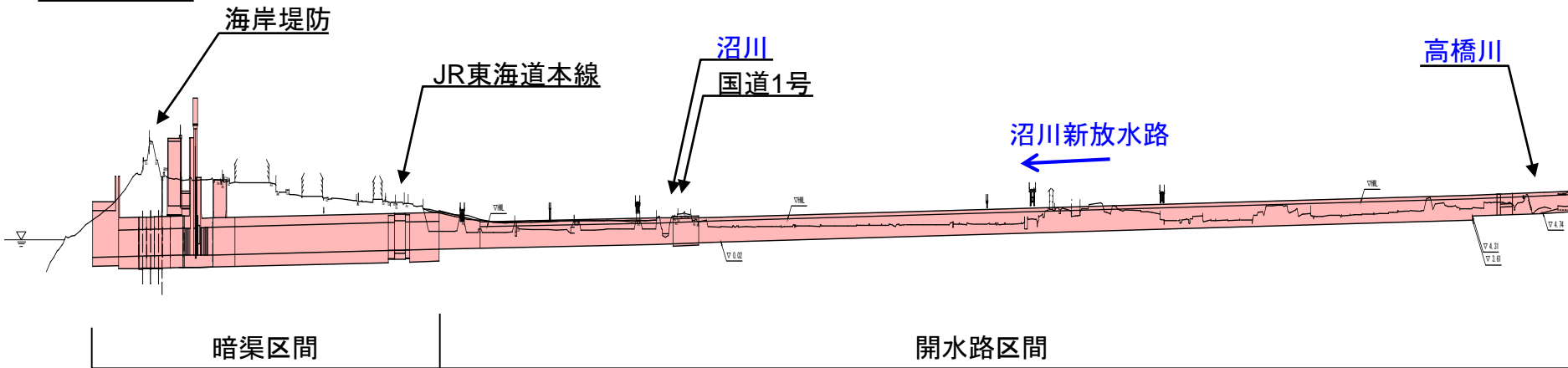
平成26年10月6日10時頃
高橋川の越水状況



平常時

事業概要

縦断図

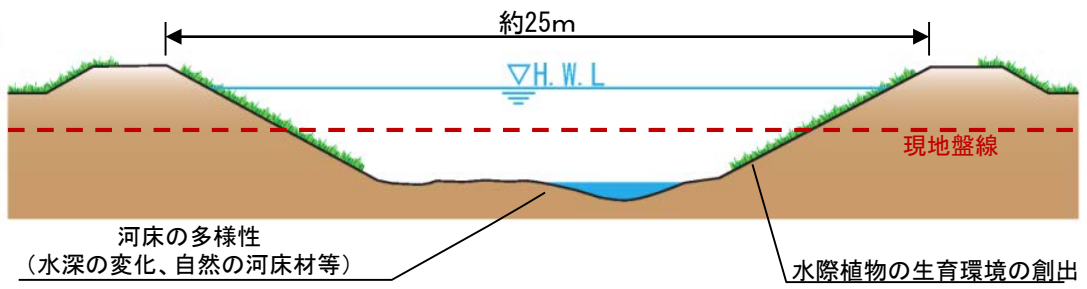


標準横断面図

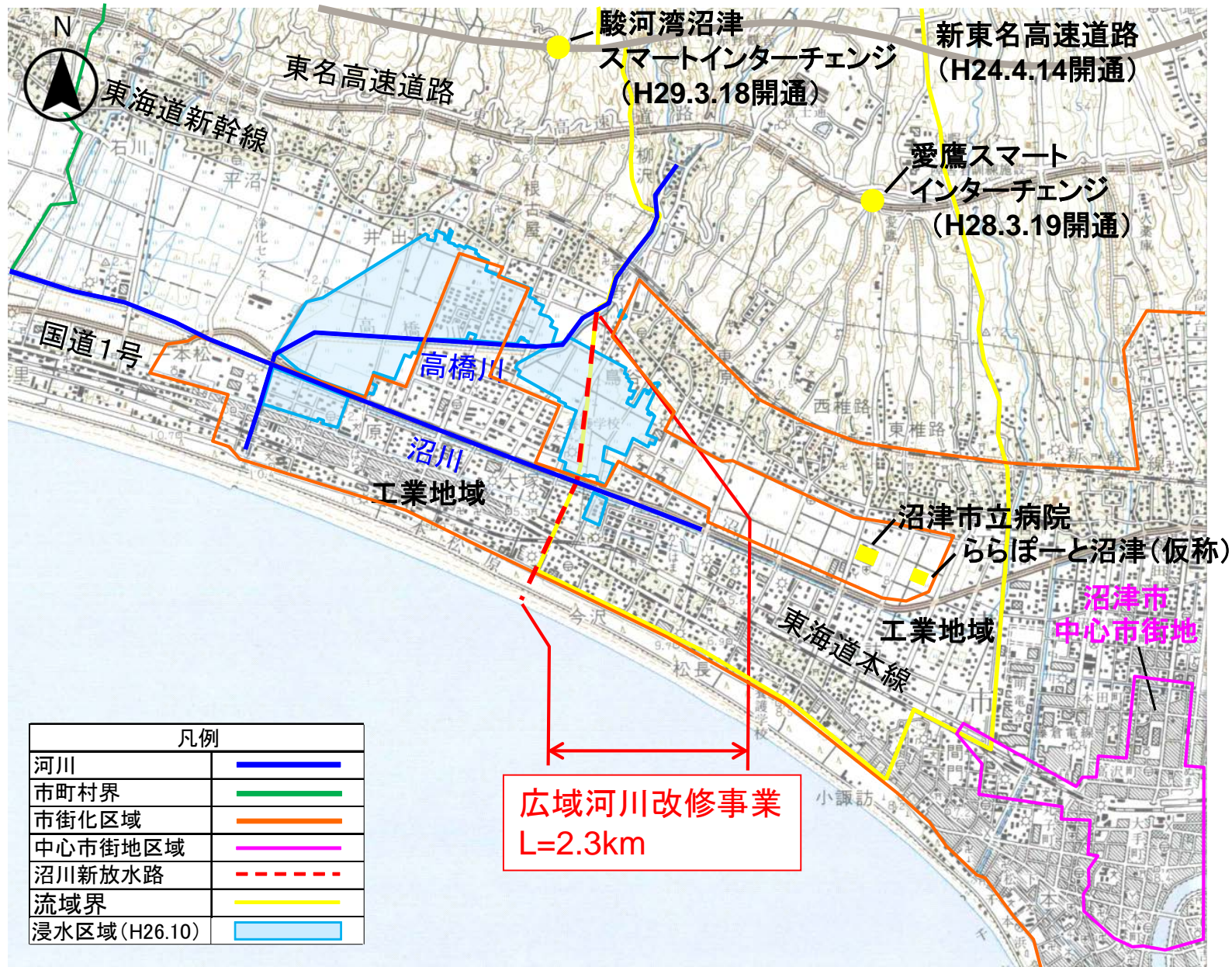
【暗渠区間 (JR東海道線より下流)】



【開水路区間 (JR東海道線より上流)】



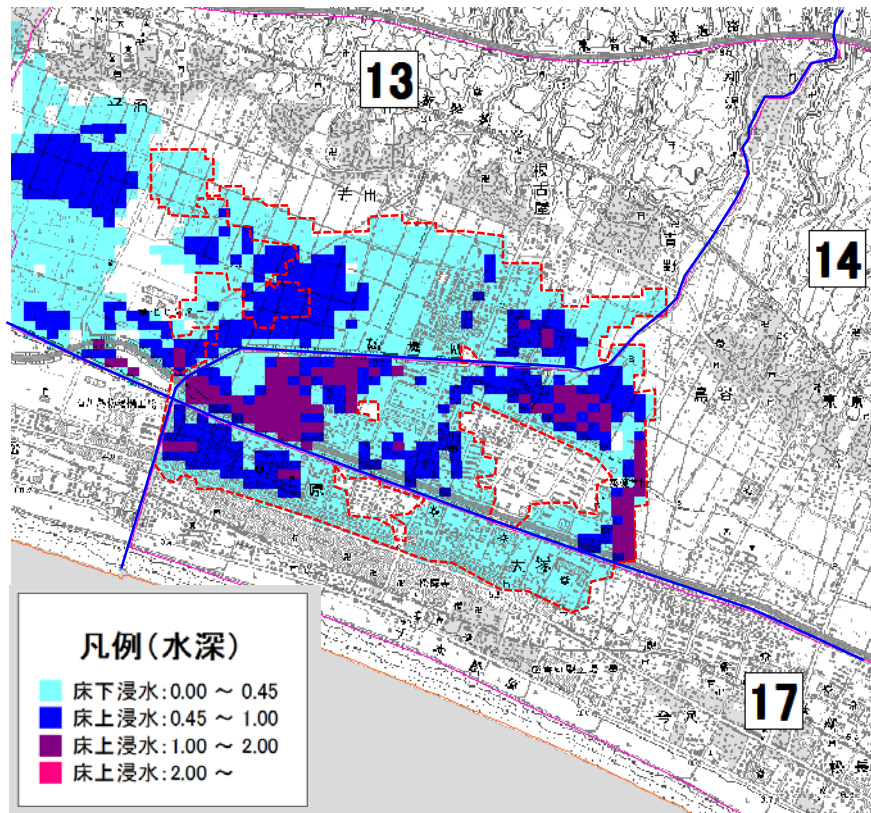
【視点1 (1)】 事業を巡る社会情勢等の変化



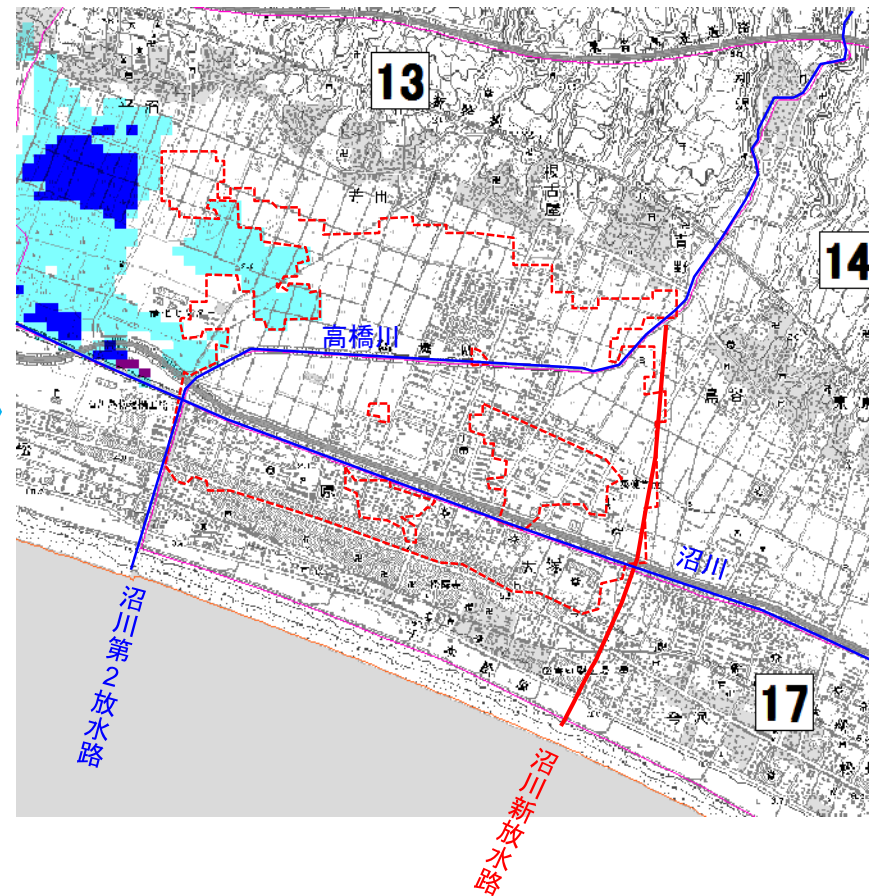
【視点1 (2)】 事業の投資効果

整備目標規模 (10年に1回の降雨) 洪水による氾濫シミュレーション結果

放水路整備前



放水路整備後



【視点1 (2)】 事業の投資効果

総便益(B) = 729.84(億円)

➤被害軽減期待額 721.90(億円)

※洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設等の被害額と営業停止損失、
家屋・事業所における応急対策費用

➤残存価値 7.94 (億円)

総費用(C) = 235.58(億円)

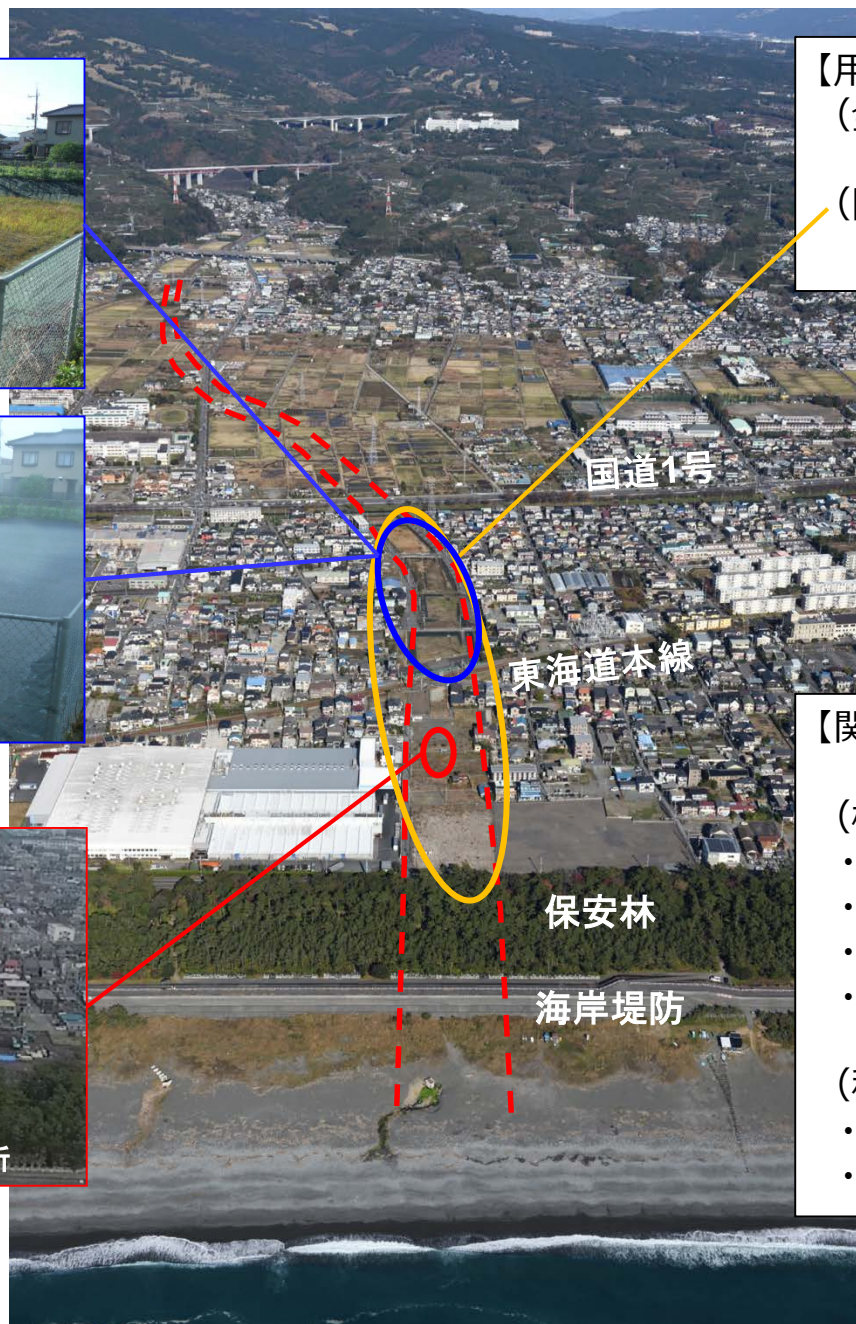
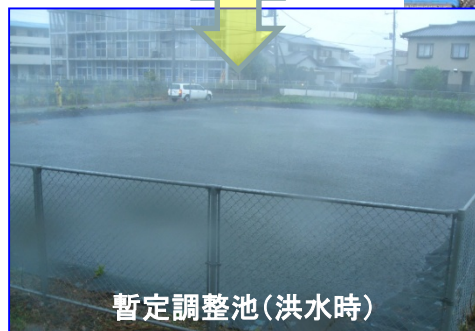
➤建設費(現在価値化) 212.37(億円)

➤維持管理費(現在価値化) 23.21(億円)

※平成29年度換算価値

費用対効果(B/C) = 3.09

【視点1 (3)】 事業の進捗状況



【用地取得率】(H29年度末見込み)
(全体区間)
…70.8%
(国1下流区間)
…99.3%

【関係機関との調整】

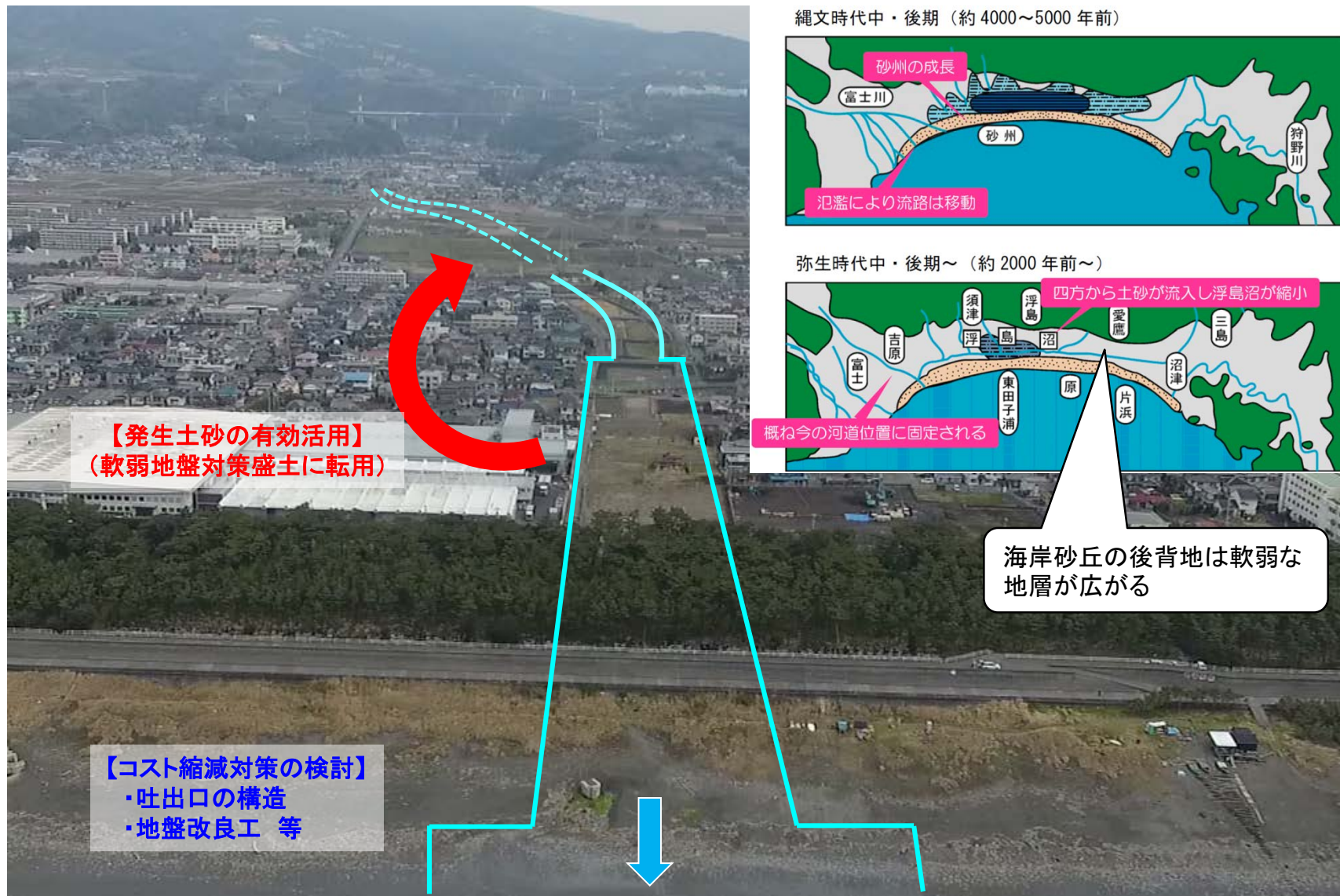
- (横断工作物管理者)
- ・海岸堤防 (国土交通省)
 - ・東海道本線 (JR)
 - ・国道1号 (国土交通省)
 - ・保安林 (県森林部局)

- (移転物件の所有者)
- ・地中送電線 (東京電力)
 - ・NTT配電 (NTT)

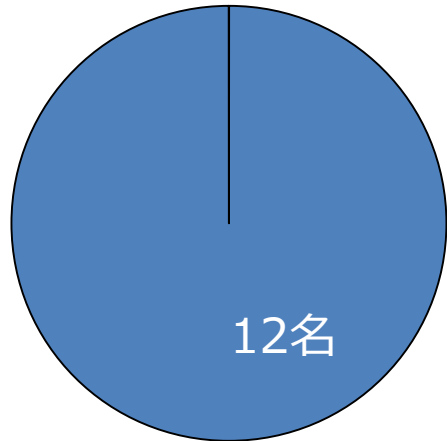
【視点2】 今後の事業の進捗の見込み

- 事業用地の取得率は、新放水路全体で約7割(H29年度末見込み)であり、事業に反対する意見も出ていないことから、事業は順調に進捗する見込みである。
- 海岸堤防交差部やJR交差部等の施工に向け、引き続き管理者等との協議を進めてまいります。
- 用地買収が概ね完了しているJR東海道本線下流において、今年度から仮設土留工に着手し、順次、本体構造物の施工を進めてまいります。

【視点3】 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性



地元意見



- 事業継続を要望
- 見直しを要望
- 事業中止を要望

主な意見

- 用地買収や墓地移転等を早く進めて、安全で、安心な放水路を早期に完成してほしい。
- 大雨が降ると洪水が心配なので、一刻も早く放水路を完成させてほしい。
- 工事にあたり、騒音・振動には、十分に気をつけてほしい。

アンケート調査結果
(沼川流域内の関係自治会役員 計12名)



地域住民の事業に対する期待は大きい

対応方針（案）

- 事業は順調に進捗しており、費用対効果も認められる。
- 地域住民の改修への期待も大きい。

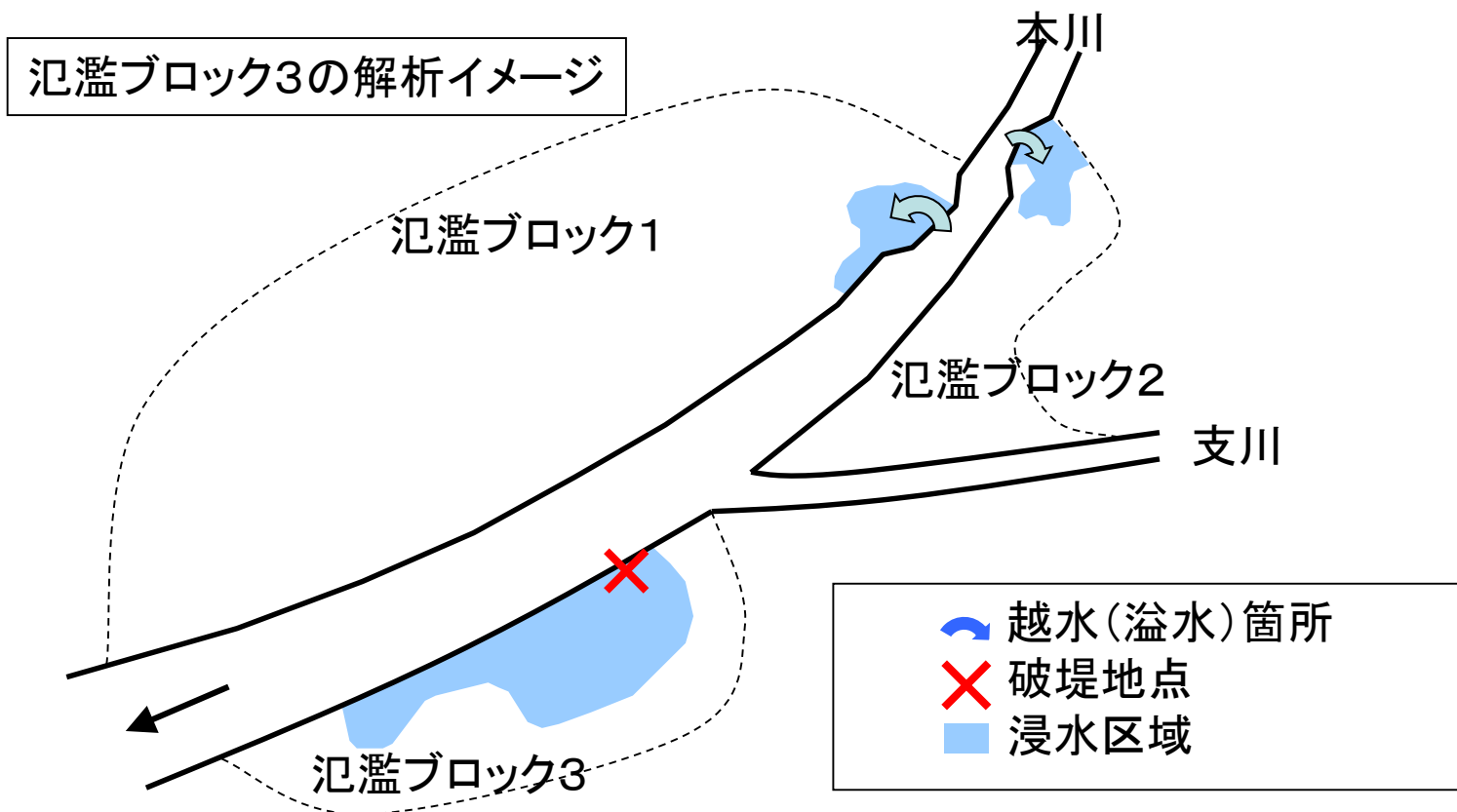


浸水被害を解消するため、**事業継続**とする。

参考資料

被害軽減期待額の算定（氾濫解析）

- 1 地形条件などから一連の氾濫区域とみなせる区域（氾濫ブロック）を設定する。
- 2 各氾濫ブロックについて1箇所（箇所）の破堤地点を想定し解析を行う。
※複数箇所の破堤地点が想定される場合は、被害額が最大となる破堤点を採用する。
※上流の流下能力不足箇所からは越水（溢水）を考慮し、下流への流量を低減する。
- 3 各氾濫ブロックの被害額を合計し、被害を算出する。



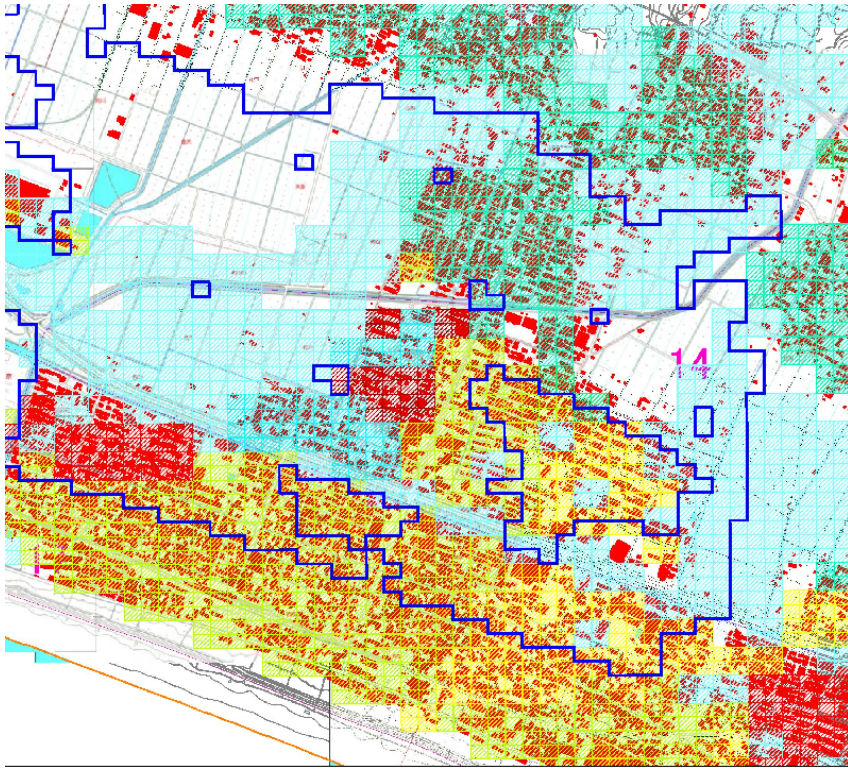
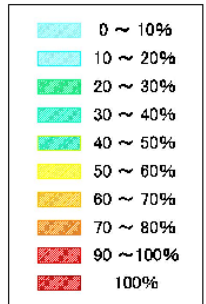
B/Cの推移

【前回(H24)】 費用対効果(B/C)= 3.98

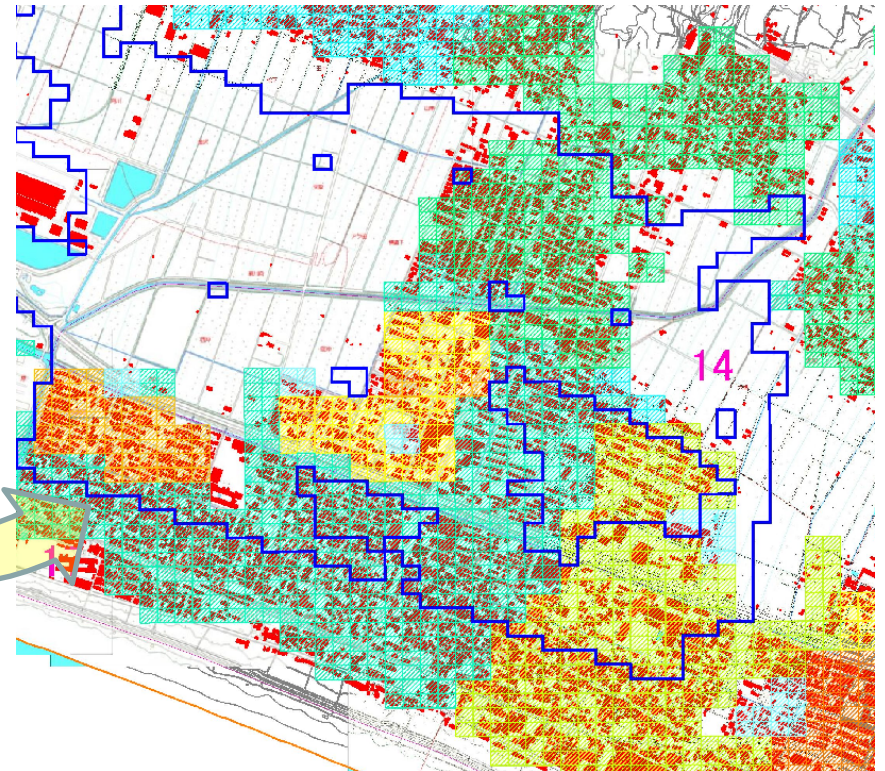
【今回(H29)】 費用対効果(B/C)= 3.09

- 前回検討時(H23)からB/Cが3.98から3.09に変更になった
- 総事業費は変更ないため、総便益が減少したことが要因
- 総便益が減少した理由は、年平均被害軽減期待額(被害額)が減少したことによる
- 年平均被害軽減期待額(被害額)が減少した理由は、一般資産額(家屋床面積)の基礎データが精度向上したことによる

メッシュに占める床面積比率



前回(H24)検討 H17家屋床面積データ



今回(H29)検討 H22家屋床面積データ

項 目		前回検討 (H24)	今回検討 (H29)
検討条件	資 産 数 量	H17	H22
	評 価 額	H24	H29
年平均被害軽減期待額（百万円）		7,102.0	5,819.2
便 益 (百万円)	純 便 益 (B= ① + ②)	72,988.0	72,919.5
	便 益 ①	72,413.5	72,189.7
	残 存 価 値 ②	574.5	729.8
費 用 (百万円)	事 業 費 (C= ③ + ④)	18,344.0	23,558.1
	建 設 費 ③	16,409.0	21,237.4
	維 持 管 理 費 ④	1,935.0	2,320.7
費 用 対 効 果 (B/C)		3.98	3.09

【B/C】 全体事業費（S55以降の事業費）

総便益(B) = 729.84(億円)

➤被害軽減期待額 721.90(億円)

※洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設等の被害額と営業停止損失、
家屋・事業所における応急対策費用

➤残存価値 7.94 (億円)

総費用(C) = 377.62(億円)

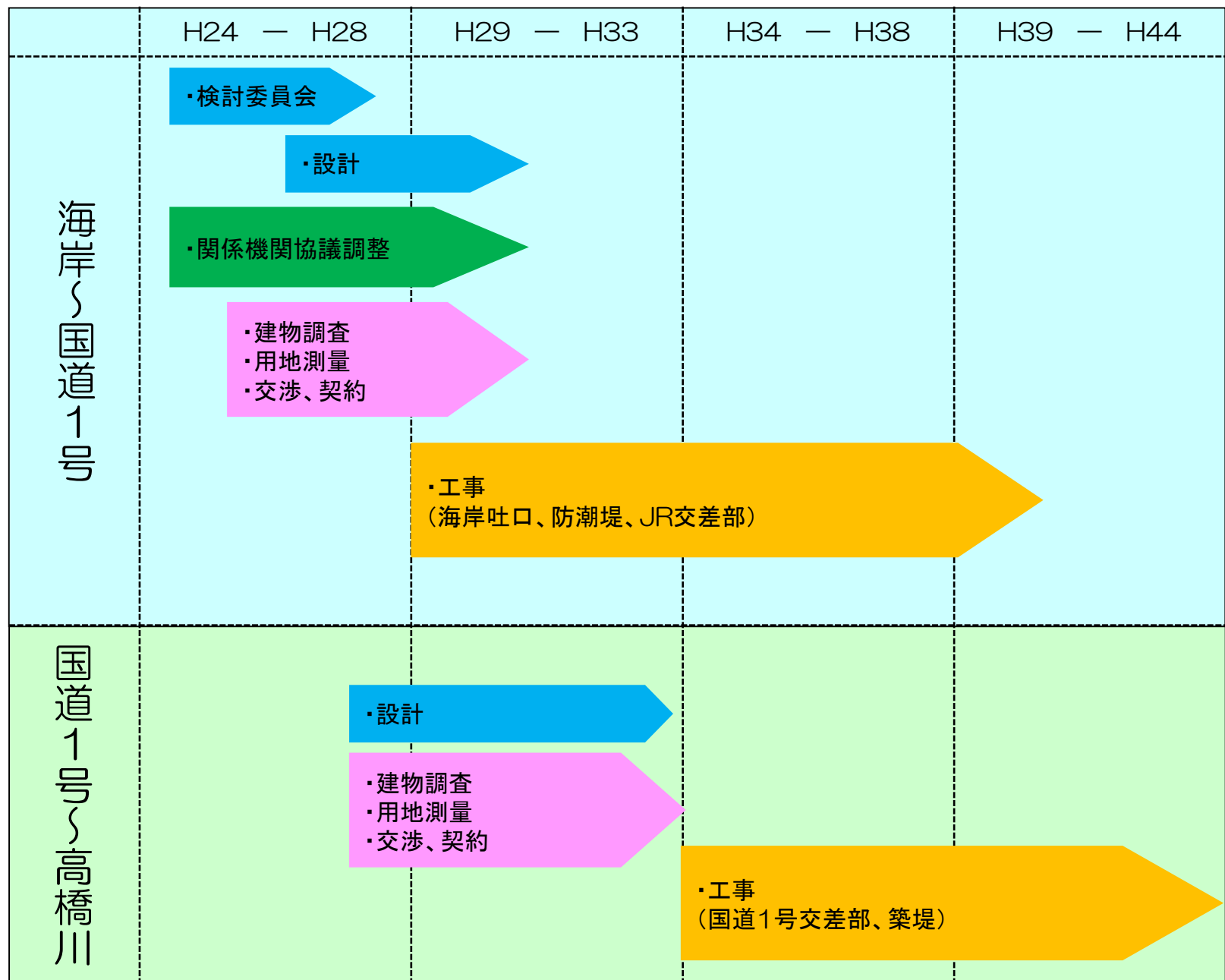
➤建設費(現在価値化) 339.66(億円)

➤維持管理費(現在価値化) 37.96(億円)

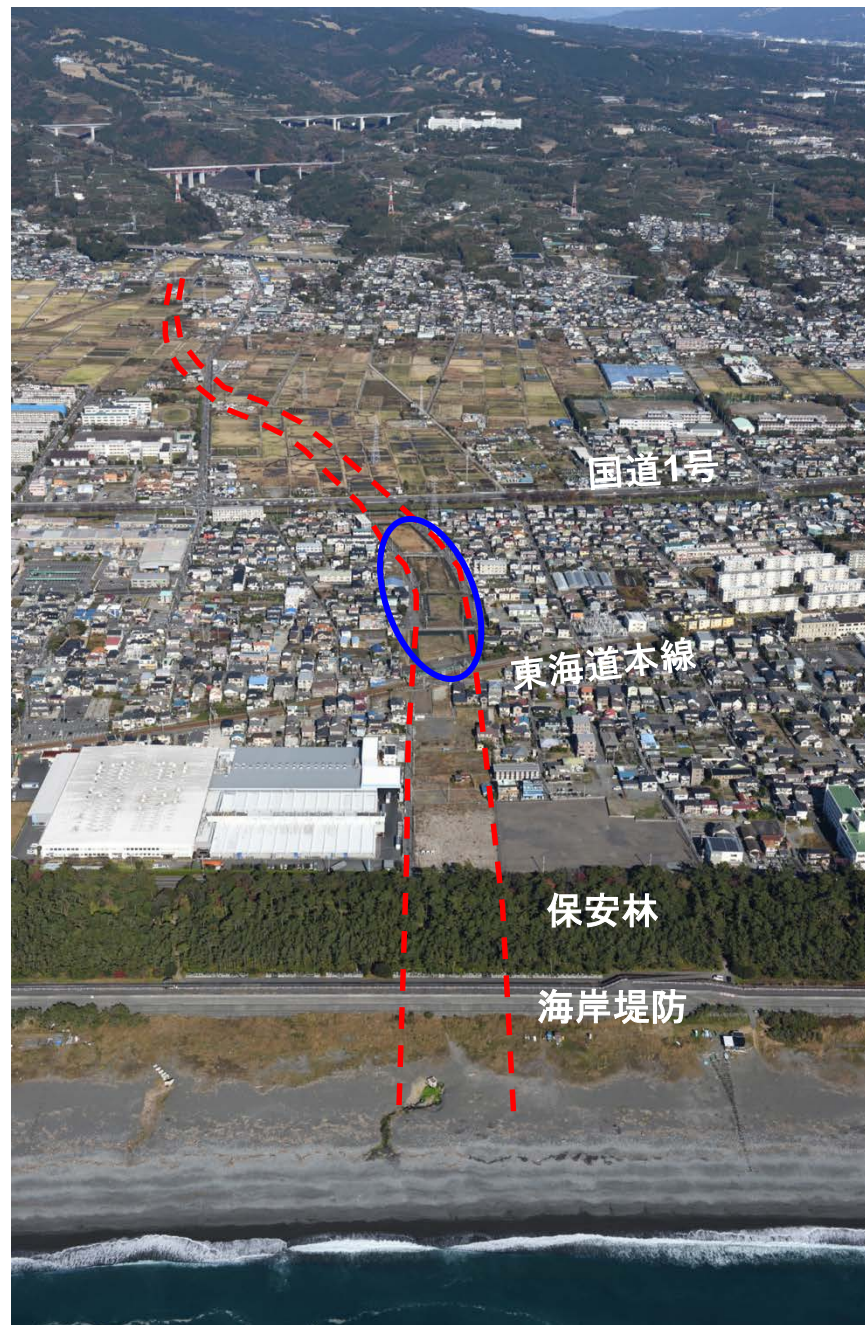
※平成29年度換算価値

費用対効果(B/C) = 1.93

全体工程



暫定調整池の治水効果



沼川新放水路の整備を進める中で、沼川合流点からJRまでの約400mの用地買収区間を有効利用し、暫定調整池として整備し、東部前川流域の洪水を調節するものである。本調整池は、平成9年度末に暫定供用開始し、平成15年度に規模を拡大、平成20年度に概成し、浸水常襲地帯である東部前川流域の浸水被害の低減に効果を発揮している。
 (東部前川の上流河道整備と併せて1/3確率対応を実施)

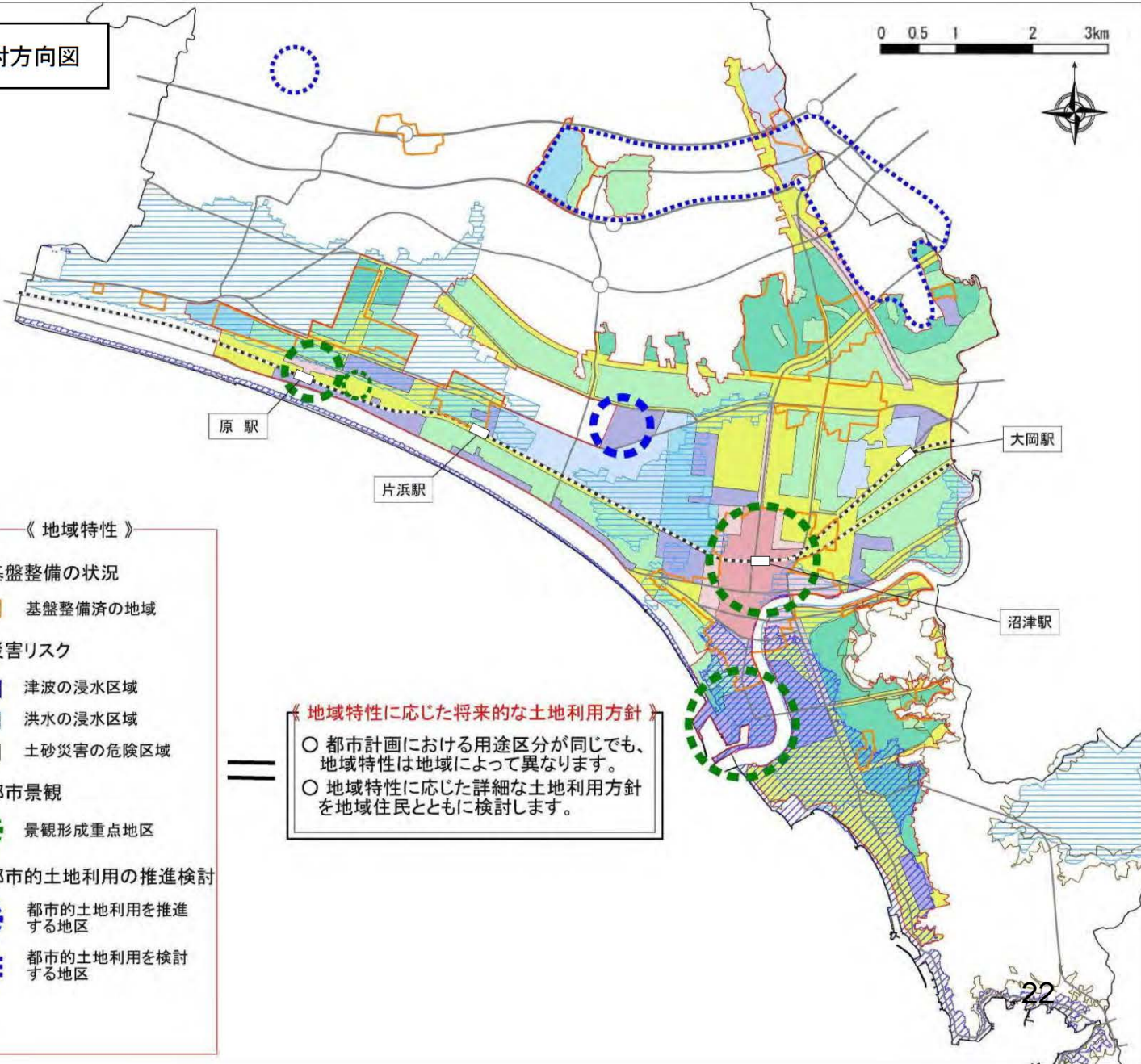


発生年月日	降雨量(mm)			浸水被害			
	時間最大	24時間	総雨量	床上	床下	合計	道路冠水
H5.7.5	不明	不明	80	0	1	1	0
H9.11.29	48	207	210	0	42	42	20cm
H11.5.4	23	126	132	0	0	0	30cm
H13.8.21	34	187	189	0	0	0	有り
H14.6.15	44	131	131	0	0	0	30cm
H14.7.10	21	167	167	0	0	0	有り
H15.7.4	73	145	145	0	0	0	15cm
H15.8.16	24	176	351	0	0	0	0
H16.8.18	62	153	153	0	0	0	0
H16.10.9	21	228	258	0	0	0	0
H19.7.14	45	298	298	4	66	70	50cm

← 暫定供用
 ← 規模拡大
 ← 概成

沼津市都市計画マスタープラン ～まちづくりの分野別方針～

◆市街化区域内 土地利用方針検討方向図



《 都市計画における区分 》

○ 土地利用区分

- 低層住居専用地域
- 中高層住居専用地域
- 住居地域
- 商業地域
- 近隣商業地域
- 工業専用地域
- 工業地域
- 準工業地域

* 土地利用区分は、用途地域をもとに作成した。住居系の土地利用については、いくつかの用途地域を組合せ以下のように設定した。

- 低層住居専用地域
 - ・第一種低層住居専用地域
 - ・第二種低層住居専用地域
- 中高層住居専用地域
 - ・第一種中高層住居専用地域
 - ・第二種中高層住居専用地域
- 住居地域
 - ・第一種住居地域
 - ・第二種住居地域
 - ・準住居地域

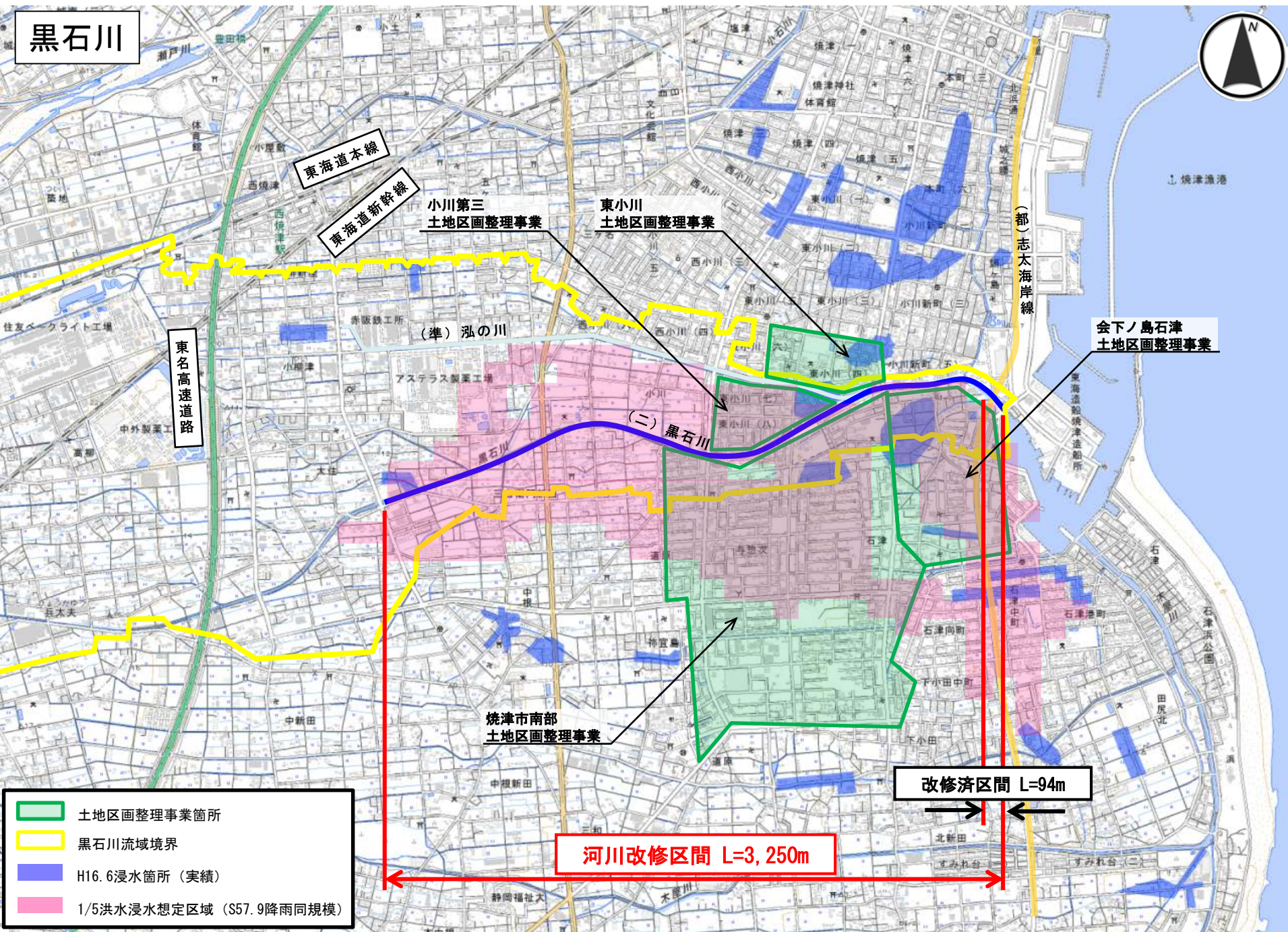
《 地域特性 》

- 基盤整備の状況
 - 基盤整備済の地域
- 災害リスク
 - 津波の浸水区域
 - 洪水の浸水区域
 - 土砂災害の危険区域
- 都市景観
 - 景観形成重点地区
- 都市的土地利用の推進検討
 - 都市的土地利用を推進する地区
 - 都市的土地利用を検討する地区

《 地域特性に応じた将来的な土地利用方針 》

- 都市計画における用途区分が同じでも、地域特性は地域によって異なります。
- 地域特性に応じた詳細な土地利用方針を地域住民とともに検討します。

黒石川



東海道本線

東海道新幹線

東名高速道路

小川第三
土地区画整理事業





東小川
土地区画整理事業

会下ノ島石津
土地区画整理事業

焼津市南部
土地区画整理事業

改修済区間 L=94m

河川改修区間 L=3, 250m

-  土地区画整理事業箇所
-  黒石川流域境界
-  H16.6浸水箇所(実績)
-  1/5洪水浸水想定区域(S57.9降雨同規模)

3. (2) 工事の内容 (用地買収の進捗状況)

【国道1号下流用地買収状況】



凡 例

	小字界線
	河川予定地
	H30年度以降予定
	H29年度取得
	H28契約引渡完了
	H27年度以前取得済
	他事業

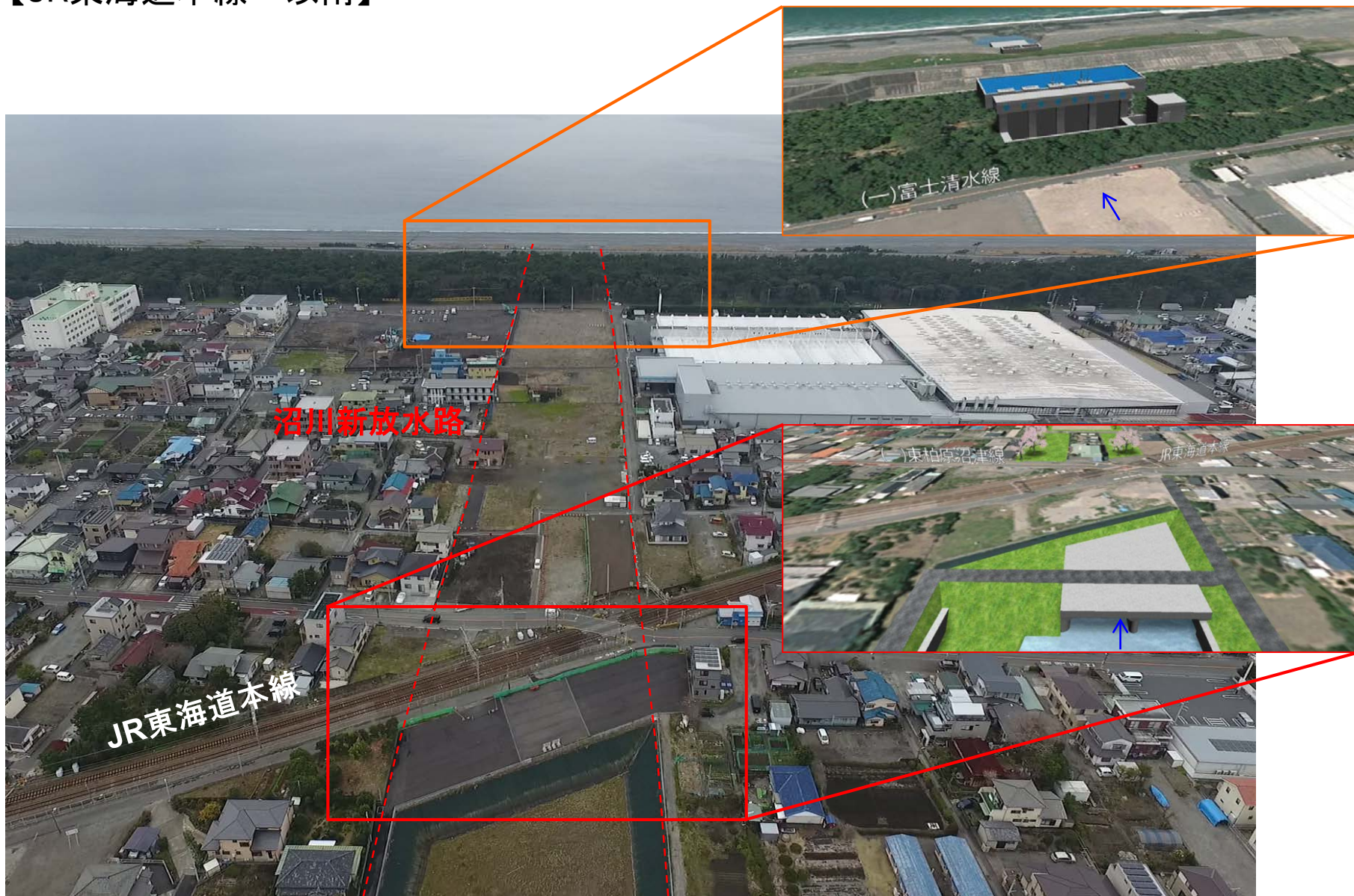
3. (2) 工事の内容

【JR東海道本線～以南】



3. (2) 工事の内容

【JR東海道本線～以南】



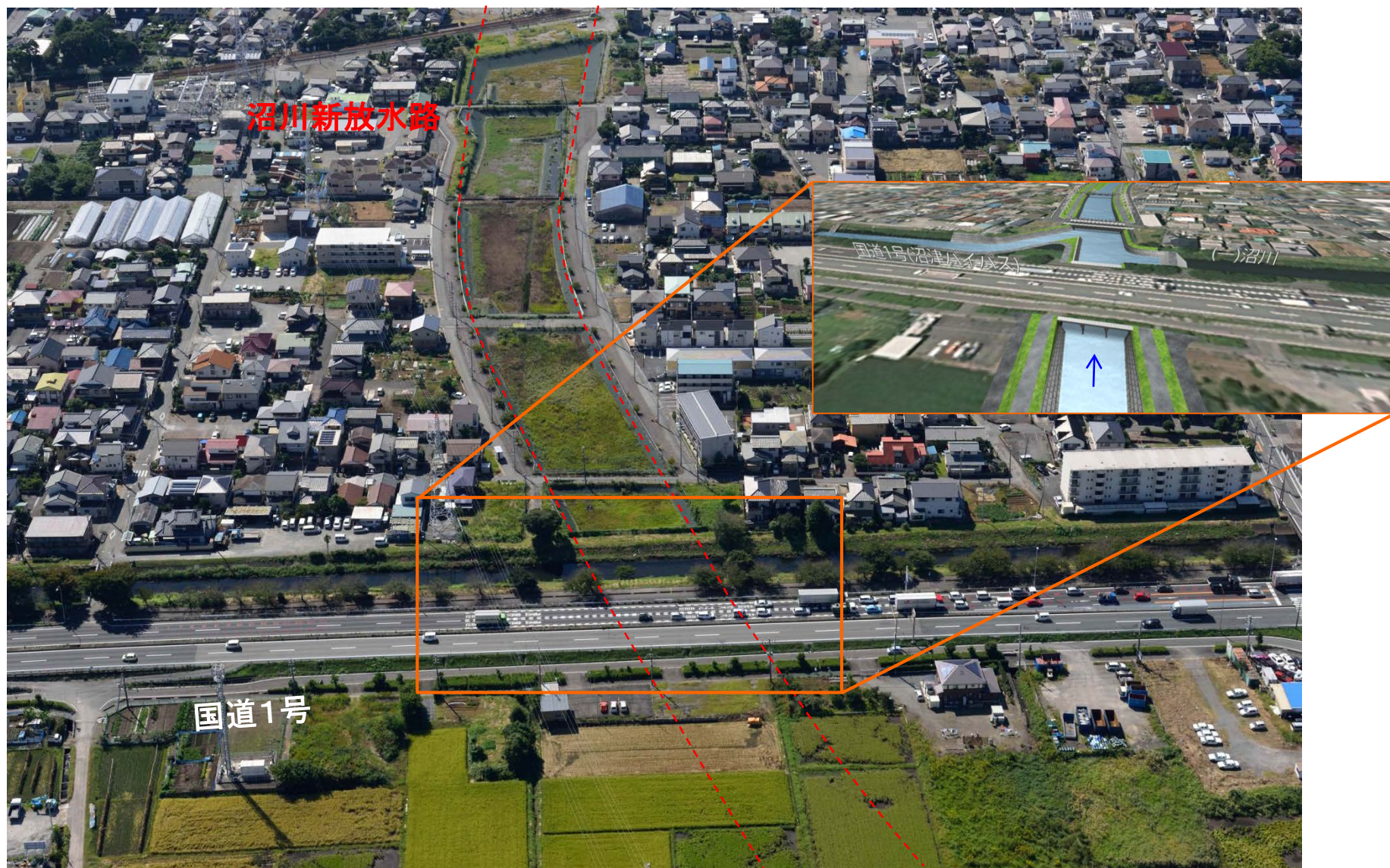
3. (2) 工事の内容

【国道1号～以北】



3. (2) 工事の内容

【国道1号～以北】



3. (2) 工事の内容 (環境対策)

